

令和2年度学校評価報告書

令和3年3月29日

北海道教育委員会教育長 様

北海道南幌高等学校長 矢 橋 佳 之 印

次のとおり令和2年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1

将来の進路を見据えて、授業で主体的に自ら学ぶ意欲と態度を養い学力の向上を目指す。
- 2

生徒一人ひとりのニーズを把握し、教職員の共通理解のもと、そのニーズに応える環境づくりを目指す。
- 3

特別活動や生徒活動及びボランティア活動を充実させ、協調性や社会性を養うとともに、いじめのない他を思いやる心豊かな人間性の育成を目指す。
- 4

保護者や地域との連携を強化し、行事や教育活動で地域の教育力を活用したり、広く教育活動を公開するなど開かれた教育課程の実践を目指す。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・目標を明確にさせることで生徒の学習時間の増加につながった。 ・校内研修等、授業の工夫改善の取組により、生徒の学習意欲の喚起につながった。	・新聞活用など幅広い視点での学習の機会をお願いしたい。
改善方策	・本校で育てたい資質・能力を育成する学習指導の在り方を検討するとともに、教科横断的な授業の推進を図る。 ・授業アンケートを核とした授業におけるPDCAサイクルの構築を図り、不断の授業改善を図る。	
生活指導	・生徒情報を共有し、生徒理解に努めた。 ・例年とは違う行事の中で、生徒の自主性を育む取組ができた。	・生徒との信頼関係を深め、生徒の見えない才能を引き出せるような関係づくりをお願いしたい。
改善方策	・生徒の特性と指導の在り方について共通理解を図り、個の特性に応じた指導のより一層の充実を図る。 ・行事等を通じて生徒の成長を促す意識の共有を図り、本校で育てたい資質・能力の向上に努める。	
進路指導	・個々の進路実現に向け、計画的で組織的な指導に努めた。 ・外部組織と連携を促進し、個に応じた進路指導を実践することができた。	・学校生活と現実社会のギャップが大きくなるように、現実社会への接続を意識した指導の充実をお願いしたい。
改善方策	・「南幌学」等の実践を通じて、社会に貢献する態度を身につけるとともに、働くことの意義の理解をより強固なものとする。	
公表方法	PTA役員会、PTA総会、学校評議員会などの会議での説明、学校HPに掲載し広く公表する。	

3 添付資料

- (1) 令和2年度 自己評価
- (2) 令和2年度 学校関係者評価
- (3) 令和2年度 学校評価保護者アンケート
- (4) 令和2年度 学校評価生徒アンケート